

第12回 有機分子・バイオエレクトロニクスの未来を拓く若手研究者討論会

開催日時	西暦 2023年9月28日～29日
開催場所	〒920-1123 石川県金沢市湯涌町イ56 湯涌温泉 かなや
参加者	38名(内応用物理会員 20名)
実施組織	有機分子・バイオエレクトロニクス分科会
開催目的	宿泊形式で講師からの幅広い分野の講義や見学を受けることで、若手研究者の研究知見の拡大をはかることを目的とする。さらに、若手研究者による研究紹介や議論を通して、人材交流と自分の研究に対しての深い洞察を行うことも目的とする。
開催内容	コロナ明けの久々の対面での若手研究者討論会を金沢市内の宿泊施設と金沢大学で開催した。今回は、国内・海外の著名で若手ながら活躍されている先生方や、融合研究を推進されている人文系の先生の講義を頂いた。さらに、2日目には、金沢大学のナノ生命科学研究所(nanoLSI)の走査型プローブ顕微鏡技術の見学と、共創研究拠点であるバイオマス・グリーンイノベーションセンター(BGIC)のバイオマス研究の見学を行った。
開催結果(成果)	<p>2023年9月28日～29日にかけて、コロナ明けの久々の対面での若手研究者討論会を金沢市内の宿泊施設(湯涌温泉 かなや)と金沢大学で開催した。参加者は講師を含めて38名であった。今回は、国内・海外の著名で若手ながら活躍されている先生方や、融合研究を推進されている人文系の先生の講義をいただくことを目的として下記の招待講演を行った。</p> <p>招待講演① 九州大学 松島敏則先生 招待講演② POSTECH Yong-Young Noh 先生 招待講演③ 金沢大学 古代文明・文化資源学研究所 谷川竜一先生 招待講演④ 産業技術総合研究所 八瀬清志先生</p> <p>ペロブスカイトデバイスの最新研究を松島先生とNoh先生から頂き、今後のペロブスカイトデバイスの可能性について議論を行った。谷川先生から戦前における朝鮮半島の水力発電の政策的・技術的特徴を植民地政策から理解する研究について講義をいただき、他分野の研究についての理解を深めることができた。最後に、八瀬先生から先生の研究の歴史から最新の電子顕微鏡技術についての紹介があり、様々な議論を行った。1日目後半は、若手研究者による研究発表を行い、お互いの研究についての理解と議論を行うことができた。</p> <p>さらに、2日目には、金沢大学のナノ生命科学研究所(nanoLSI)の走査型プローブ顕微鏡技術の見学と、共創研究拠点であるバイオマス・グリーンイノベーションセンター(BGIC)のバイオマス研究の見学を行った。最後に、若手研究者の発表のベストプレゼンテーションアワードの表彰を行い、佐賀大学 神代 健人氏、金沢大学 矢澤 兒海氏、慶應義塾大学 神川 郁海氏、東京工業大学 西山 弓恵氏、大阪公立大学 西室 愛実氏、九州大学 星野 秀太郎氏、静岡大学 大隅 萌香氏、慶應義塾大学 高山 和輝氏の8名が受賞した。</p>
	 